

## 第83回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和2年9月15日（火）

午後7時～午後8時10分

会 場：城山総合事務所第1別館2階B会議室

出席者：16名（欠席6名）

傍聴者：2名

1 開 会 石井所長

2 代表あいさつ 大参代表

3 議 題

（1）令和2年度城山地区まちづくりを考える懇談会のテーマと内容について

事務局から資料1・2に基づき、令和2年度城山地区まちづくりを考える懇談会の概要及び開催の流れ等の説明がされた。その後、資料3の前回全体会での意見をもとに作成されたテーマ（案）等についての検討を行った。そして、今回の意見を踏まえテーマ（案）等を修正し、次回の全体会で再度検討を行い、テーマ及び内容について決めていくこととなった。

主な意見

- ・資料3にあるような大きなテーマの方が様々な意見交換ができるかと思う。テーマが絞られると懇談に広がりがなくなる。
- ・テーマは良いと思うが、内容について、若い世代・世帯が魅力を感じ、城山地区に集まってくるような取組について懇談するような内容を追加したらどうか。その魅力として、雇用や若い人が育つための施策についても表現したらどうか。
- ・城山地区に住みたい・住み続けたいと思えるための課題等について話し合ったらどうか。
- ・住みよい・住み続けたいまちにするための各委員の意見をある程度具体化して、事前に市に伝えないと回答が得られない。ただ、意見を言うだけになってしまう。
- ・自治会活動をしていて、地域からの意見は、道路に関することが多い。危険なところが多い。要望をあげているが、予算の関係もあり、いつになるかわからない。しかし、子どもの安全性の観点からもっと道路に関する要望を受けてほしい。

- ・懇談会では、住みやすい・住み続けたいまちづくりというテーマについて、次世代を担う子どもたちが住みやすい・住み続けたいと思うようなまちづくりや学校以外で次世代を担う子どもたちをどのように教育していくのかの市の考えを聴いたらどうか。
- ・10年後・20年後この地域に戻ってくる子どもたちを育てるには、地域と連携した仕組み作りも必要。城山地区は地域と学校との関係性がよい。教育で選ばれるまちづくりを行う必要がある。学校の資源と地域の資源をいかに組み合わせ、地域に戻ってくる子どもたちをどのように育てるか懇談したらどうか。
- ・城山地区の魅力は、自然だけでなく、地区内にスーパーは4つあり、高齢者も比較的住みやすいまちと言える。高齢者も元気なうちは、徒歩や自転車、自動車を使い自力で買い物に行ける。都市としての機能もあり、自然もあり魅力がある。しかし、高齢者が免許を返納した後は、自力で買い物に行けない。移動販売もあるが、地区内の巡回する移動支援のシステムについて、市と検討したらどうか。
- ・今日のニュースで借りて住みたいまちランキングで本厚木が1位であった。選ばれる理由として、子育て支援や高齢者に対する支援が充実しているところにある。相模原市でも買い物難民等、地域で抱える課題についての考えを市で示してほしい。
- ・住みよいまちとは、いかに次の世代につなげていけるかということ。それを行うためにどのようなことができるかを考える必要がある。

## (2) 城山地区で具現化していく取組について(部会検討)

今回は、全体会終了後に各部会に分かれ検討を行い、各部会検討終了後解散となった。

### 【各部会での検討内容】

#### 高齢者とともに築き支える地域づくり部会

- ・資料4・5をもとにポスター(案)、チラシ(案)の検討や今後のスケジュールの確認を行った。

#### 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

- ・NPO法人コドモ・ワカモノまちingの星野氏にお越しいただき、コロナ禍における取組の提案の説明を受け、その後各委員からの質疑を行った。次回の部会検討では、この提案内容をもとに今後の取組について、検討することとなった。

(3) その他

- ・ 次回のまちづくり会議は、令和2年11月4日(水)午後7時から城山総合事務所第1別館2階B会議室で開催することを確認した。
- ・ 令和2年度地域活性化事業交付金対象事業である「第3回城山湖ヒルクライムアタック雌龍籠山ステージ」(城山湖ヒルクライム実行委員会)について、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となった旨報告がされた。

4 閉 会 曾根副代表

以 上